

ぼくの家のお米作り

六日市小 五年 上山 瑛大

今年は、米不足のニュースでいっぱいだった。ぼくの家では、毎年夏休みになるとお米の注文が入るが、今年は注文が入るのがとても早かった。五月ごろから、どんどん注文の電話がきて、今も注文は増え続けている。日本中がお米がなくて大変だったから、早く注文するのだろう。

「農家の時給は十円」というビツワリする

ニュースを見たのも今年だ。米は、日本の食に欠かせないものなのに農家は高い代金で米を作る人がいなかっただろう。

ぼくの家では、家族みんなで米作りをしている。おいしいちがんとお父さんが主にやっていて。しかし、今年の春、おじいちゃんがかきをしてしまい農業ができなくなっていてしまった。いつもはおじいちゃんがあらおこしをして、お父さんが田植をする。田植は、

たくさんの仕事があるので、みんなが手伝って、協力してやる。でも、今年は、おじいちゃんがあらおこしができないので、その分、お父さんがあらおこしも田植えもすることになった。

それからのお父さんは大いそがしだ。朝五時から働き、仕事に行って、帰ってきたら、草かりをしていた。お父さんはとても働き者だ。どうしてそんなに働くのか聞いてみた。

「上山のお米をまいている人から。」

とお父さんは、ほこらしげな顔で答えた。

そんなお父さんを手伝いたいと思って、ぼく

は、今まで以上に手伝うことにした。今年の

もみぎきの土入れは、いとのこといっしょに協力

力して手伝った。二十キロある土を持ち上げ

るぼくを見て、お父さんは、

「たのしい。助かるなあ。」

と言ってくれた。その言葉がうれしくて、ぼ

くは、はりきって手伝った。田植えをした時

には、なえ箱もお母さんと妹といふことあら

た。だが早くあらえるか競争しながらあらうと楽しかった。大変な仕事だけど、みんなできる楽しい。

田植え後も仕事はたくさんある。水の量を
見てまわったり、草かりをしたりするのだ。
ぼくは、田んぼの中の草をとる仕事を手伝う
ことにした。学校から帰ると田車おして歩
いた。暗くなるまでの手伝いは、とてもつか
れたけどお父さんも仕事の後にやっていたか
ら、ぼくもがんばろうと思った。田んぼの中

を歩くのは、とても大変だった。お父さん
が喜んでくれるので、ぼくもうれしくなっ
た。ただれかが喜んでくれると、かわいくなる。
お父さんもたくさん注文してくれる人たちが
、おいしいお米をありがとう。
とき、くれるからこんな大変な仕事がい
きるのだと思っ

夏休みの終わりごろからは、いねかりが
まる。今まで以上にお父さんの力になり、上
山の米を待つてる人に届けた。